

令和5年度 全国学力・学習状況調査 活用研修会

児童質問紙
生徒質問紙
学校質問紙

群馬県教育委員会



各質問紙結果の本県の傾向（顕著なもの）

	小中学校ともに全国平均を	
	上回っていたもの	下回っていたもの
児童・生徒質問紙 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器の使用頻度 ○ 将来の夢や目標 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 困りごと等の教職員への相談
学校質問紙 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTの利活用に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・授業でやりとりをする場面 ・授業のまとめや発表の場面 ・家庭での利用 ・家庭との連絡 ○ 業務改善に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の人との協働 ・ICTによる校務の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中学校間連携に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・合同研修等の実施 ・本調査の分析結果の共有 ・教育課程に関する取組 ○ 教員の研究会等への参加

成果の分析

【児童生徒質問紙】

(7) 将来の夢や目標を持っていますか。



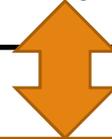
肯定的回答率 ()は全国平均との差	R5	R4
小学校	84.7% (+3.2)	82.6 % (+2.8)
中学校	70.0% (+3.7)	71.3% (+4.0)

()内は全国平均との比較

成果の分析

【児童生徒質問紙】

(7) 将来の夢や目標を持っていますか。



【学校質問紙】

(11) 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った。

小学校: 90.2% (+3.7)

中学校: 98.7% (+0.1)



【学校質問紙】

(89-6) 職業体験活動を行った。

中学校: 70.9% (+11.8)



成果の分析

【児童生徒質問紙】

(7) 将来の夢や目標を持っていますか。



○否定的な回答をした児童生徒

小学校	15.3%	(30人学級に約5人)
中学校	29.4%	(30人学級に約9人)

成果の分析

自己肯定感

【児童生徒質問紙】



(4)自分にはよいところがあると思いますか。

小学校:85.4%(+1.9)

中学校:81.7%(+1.7)

【児童生徒質問紙】



(5)先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

小学校:88.4%(-1.4)

中学校:87.4%(+0.1)

成果の分析

学級活動

【学校質問紙】(39)

今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている。



小学校: 93.8% (+0.7)

中学校: 90.5% (-1.5)

【児童生徒質問紙】(41、45)

学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。



小学校: 76.1% (+0.4)

中学校: 71.5% (-0.1)

意識の差

こんな取組があります

自己肯定感

常時指導の充実

○児童生徒一人一人の存在や思いを大切にするための教室環境や言語環境の整備、いじめを許さない学校・学級の雰囲気づくり

学級活動

事後の活動の充実

○【決めたことの実践→振り返り→次の課題解決へ】といった一連の事後の活動中でのキャリア・パスポートの活用

課題の分析

【児童生徒質問紙】

(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



肯定的回答率 ()は全国平均との差	R5	R4
小学校	66.2% (-2.3)	65.3% (-2.8)
中学校	61.6% (-4.8)	61.2% (-5.4)

課題の分析

【児童生徒質問紙】

(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



いろんな先生と
関わっていない？

担任が抱え込んでいないか？

SCとの関わり
が少ない？

家族に相談している？

相談窓口の周知は？

SOSの受け止め体制

SOSが出せる関係づくりは？

みんなに声を
かけているかな？

話しかけにくいのかな？

「忙しいから後で」
って言っちゃったな...

我慢させちゃってるかな？

安全・安心な風土



課題の分析

SOSの受け止め体制

担任の「抱え込み」の心配はないか？



【学校質問紙】

(14)授業の問題を、ともに話し合っている。

小学校:65.8%(-10.7)

中学校:65.2%(+3.8)

(15)学級の問題に、ともに解決に当たっている。

小学校:83.4%(-3.3)

中学校:77.2%(+1.9)

安全・安心な風土

学校は安心できる場となっているか？



【児童生徒質問紙】

(12)学校に行くのは楽しいと思いますか。

小学校:85.3%(±0.0)

中学校:82.3%(+0.5)

(14)友達関係に満足していますか。

小学校:90.8%(+0.5)

中学校:88.2%(-0.5)

取組のポイント

SOSの受け止め体制の整備

チームで行う児童生徒理解

- 複数の教職員で児童生徒との関わりをもてるようにする
- 学年会等の場で児童生徒の気になる様子などの情報を共有する

安全・安心な風土の醸成

学級経営の充実

- 教員と児童生徒、児童生徒相互の共感的で温かな人間関係づくり
- 児童生徒の意見が尊重される集団づくり

教育課程や日々の指導の一層の充実・改善

人権教育の視点

- ◆人権重要課題への理解を深めるとともに、児童生徒一人一人の存在や思いを大切にしましょう。
- ※「人権教育の指導方法等の在り方について」
「第三次とりまとめ」(文部科学省)

児童生徒理解に基づく成長を促す生徒指導の充実

- ◎多面的・総合的な児童生徒理解に努め、一人一人のよさや違いを大切に指導の充実を図り、教職員と児童生徒との信頼関係を築きましょう。
- ◎集団の中で、各自がもっている可能性を伸ばしたり、互いに支え合う人間関係を形成したりして、集団の発展や個人の成長を促しましょう。

特別支援教育の視点

- ◆全教職員が障害への理解や個に応じた配慮等について認識を深め、組織的に支援しましょう。
- ※「小学校学習指導要領解説 総則編」(H29年7月文部科学省)
「中学校学習指導要領解説 総則編」(H29年7月文部科学省)
「発達障害理解パッケージVer.0.5」(R3年8月県教委)

困難課題対応的生徒指導

特別な援助が必要な児童生徒に対して

学校内におけるチーム支援(校内連携型支援チーム)

- 本人や保護者の意見を踏まえ、関係職員やSC・SSW等専門スタッフを交えたアセスメント(見立て)に基づく支援方針や役割分担の決定 ※「SC・SSWとの協働で学校の対応力を高めよう!!」(R3年7月県教委)
- いじめ、不登校、自殺企図等、生徒指導上の諸課題に加え、発達障害、外国人児童生徒等、ヤングケアラーなど、多様な背景をもつ児童生徒に対する組織的な支援と教職員の資質向上



コーディネーター役の教員を位置付けた教育相談の推進

学校外の専門家との連携による支援(ネットワーク型支援チーム)

- 児童相談所、警察、医療機関、市町村の保健福祉部局等との連携による、よりよい解決策の検討
- OSCSV、派遣型S S W、特別支援教育専門相談員の積極的な活用

不登校傾向児童生徒への支援

- 将来の社会的な自立へ向け、本人の中にある強みや成長する力を生かす支援 ※「不登校児童生徒の自立へ向けて」(H30年3月県教委)
- 家庭の状況や本人の気持ちに寄り添った段階的な支援
- 教育支援センターやフリースクール等民間団体との連携 ※「すべての子どもたちが学び続けるために」(R4年10月県教委)
- 教室で授業が受けられない児童生徒への学習保障 ※「I C Tを活用した不登校児童生徒支援について」(R4年2月県教委)

課題早期発見対応

気になる児童生徒に対して

SOSの受け止め体制の整備

- いじめ、不登校といった生徒指導上の諸課題は、誰にでも起こりうるという認識の共有 ※「R3年度文科省調査」の結果を受けた県内の対応について」(R4年10月県教委)
- 表情やしぐさ等、児童生徒の変化に気付いた際の積極的な声掛け、チャンス相談
- 日常の観察、健康観察、いじめアンケート等を通した児童生徒の変化の早期発見・対応
- 命の危機、児童虐待、ヤングケアラー等に対する迅速かつ適切な支援 ※「児童虐待から子どもたちを守るために」(H31年2月県教委)



いじめの早期発見・解消(再発防止)

- 学校いじめ対策組織を中核とした組織的な対応(抱え込みの防止)
- 児童生徒の感じる被害性に着目した、いじめの積極的な認知
- いじめを受けた児童生徒の安心と安全の確保、不登校、仕返し被害等の未然防止
- いじめを行った児童生徒の背景に目を向けた成長支援(傍観者への支援を含む)



※「いじめの解消に向けて大人たちができること」(R元年度いじめ問題対策連絡協議会)

課題未然防止教育

全ての児童生徒に対して

発達支持的生徒指導

SOSの出し方教育の推進

- 様々な困難・ストレスの対処方法を身に付けるためのSOSの出し方・受け止め方に関する教育の実施(意図的・計画的に年1回以上)
- ※群馬県版中学校「SOSの出し方に関する教育」プログラム (H31年3月 県こころの健康センター)
- ※「SOSの出し方・受け止め方指導プラン」(総合教育センター-R元年度長所研職員作成)
- 困ったときに児童生徒同士で相談し合える雰囲気醸成

いじめ防止教育の充実

- 各校が策定した「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の充実
- 家庭・地域と連携しながら行う、児童生徒による主体的ないじめ防止活動の推進
- ICTリテラシー向上による、ネットいじめやネット依存の防止
- ※群馬県「ネットリテラシー向上動画教材」
「ネットリテラシー向上体験型Web教材」



- ・薬物乱用防止教室、情報モラル講習会の実施
- ・非行防止教室(県中学生非行防止プログラムの活用)

自己指導能力の獲得を支える生徒指導「4つの視点」

【自己指導能力】深い自己理解に基づき「何をしたいのか」「何をすべきか」主体的に問題や課題を発見し、自ら設定した目標の達成のために自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自ら決断・実行する力

自己存在感の感受

- 児童生徒が「自分1人の人間として大切にされている」と実感できる場面の設定

共感的な人間関係の育成

- 他者の個性を尊重し、互いに認め合い・励まし合い、支え合うことのできる学級集団づくり

自己決定の場の提供

- 授業の中で、課題の設定や学び方など児童生徒自らが選択したり、決定したりする場の工夫

安全・安心な風土の醸成

- 安心して授業や学校生活が送れるような風土づくりと規範意識の向上

集団指導と個別指導の充実

集団を育てる

- 互いの考えや立場を認め合う
- 温かな人間関係のもと、互いに支え合う
- 共に成長する喜びを実感し合う

相互作用

個を育てる

- 一人一人に活躍の場がある
- 成長意欲が高まり、様々なことに挑戦する
- 成功体験を積み重ね、自己肯定感が高まる



群馬県教育委員会
各課発行・提供資料

義務教育課

生徒指導係関係資料

その他資料

まとめ

児童質問紙・生徒質問紙及び学校質問紙結果



全国や県の平均と自校の結果との比較



教職員と児童生徒
との意識の差

成果と課題の分析

肯定的回答に隠れて
いる部分への意識

小中学校での情報共有

保護者・地域への発信・協力依頼

教育課程や日々の指導の一層の充実・改善